




2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【北九州市】

学校名【北九州市立松ヶ江北小学校】

1 実践テーマ	I・II・ III ・IV・V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	松ヶ江北小学校 第5学年 1クラス 13名 全校児童 89名 保護者 15名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ 総合的な学習の時間 ） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ 車いすバスケットボール小学生大会 ） ② その他（ 家庭教育学級 ）
4 目標 (ねらい)	○ パラリンピックや障害者スポーツを調べたり、体験したりする活動を通して、パラスポーツの楽しさを実感するとともに障害をもった方たちと共生する社会について考える。また、車椅子バスケットボールやパラ野球の選手の話聞き、誰もが気持ちよく生きるために必要なことについて自分の考えをもち、実践していこうとする心情を養う。
5 取組内容	<p>○ パラリンピックや車椅子バスケットボールについて調べる。</p> <p>○ 車椅子バスケットボール小学生大会に向け、練習をするために大切なことを障害者スポーツセンターの方に聞いたり、教えてもらったりする。(6月～11月 週1回)</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 10px; border: 1px solid orange; border-radius: 15px; padding: 5px; background-color: #fff9c4;"> <p>大事なことは、相手への思いやりとコミュニケーション（声を出す）</p> </div> </div> <p>○ 車椅子バスケットボールの競技者から話を聞き、車椅子バスケットボールを覚えてもらう。(福澤 翔選手との交流活動2回)</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 10px; border: 1px solid green; border-radius: 15px; padding: 5px; background-color: #e8f5e9;"> <p>大事なことは、自分に自信をもつあきらめないこと</p> </div>  </div> <p>○ 車椅子ラグビーチームの選手と交流する。(一緒にプレー、給食)【イギリスチーム】</p>



○ オーストラリアチームの選手と交流する。(質問・一緒にプレー)



【オーストラリアチーム】

○ 車椅子バスケットボール小学生大会に出場し、試合を経験したり、福澤選手やオーストラリアチームを応援したりする。



○ 応援した選手との交流活動を通して、自分の体験と比べながら人間の強さ・生きがい・仲間・豊かな生活等について考える。

○ 学習したことを振り返り、友達と意見交流する中で、誰もが気持ちよく生きるために必要なことについて自分の考えをもち、実践していこうとする心情を養う。

○ 学習したことをまとめ意見交流会をする。



○ その他のパラスポーツについて調べたり体験したりする。パラ野球の競技者(黒塚智幸選手)から話を聞き、野球体験を行うなど講話や体験を通して、人間の強さ・生きがい・仲間・豊かな生活等について考える。

○ 様々な障害者スポーツ学習を通して2020年東京オリンピックパラリンピックに向けてできることを考える。

【障害者スポーツセンターでの障害者スポーツ体験】



6 主な成果

○ 総合的な学習の時間「パラスポーツdeバリアフリー～I'm possible～」として5年生が取り組んだことで、探究的な学習活動を行うことができた。

○ 事業を活用し、パラスポーツ選手やチームの方との交流活動やパラスポーツ体験を位置付けたことで、子どもは自分の課題として追究意欲をもち続け、より深い学びとなった。

○ 障害者スポーツセンター(アレアス)に相談しながら、交流できる方を紹介していただいたり、パラスポーツを体験させていただいたりできた。また、「車椅子バスケットボール小学生大会」に出場させていただいたことで、長期的(6月～11月)に競技用車椅子を借りることができ、週1回の指導を継続的に行っていた。その結果、技術面や心情面等共に向上することができた。

○ 車椅子バスケットボールの選手や車椅子ラグビー、パラ野球選手の話を知ったり、一緒に体験活動をしたりしたことで、選手のすごさを実感すると共に選手の生き方や考え方にふれることができた。また、一連の学習活動をパラスポーツ新聞にまとめ、他学年に発信することで障害のある方と共生する社会について考えることができた。

○ 福澤選手やオーストラリアチームの選手、イギリスチームの選手、黒塚選手など本物との出会いは、子どもに大きな感動を与え、自分たちの

	<p>生き方や生活を見つめ直すよい機会となった。</p> <p>○ 「障害者スポーツ」を学習材にしたことで、障害のある方へ偏見をもたず、理解が深まり、「すごい」という肯定的な見方や考え方が自然とできるようになり、共生を感じ取った。</p> <p>【学習後の子どもの振り返り】</p> <p>○ 私は、車いすバスケットボールを通して、みんなで協力することの大切さを学びました。一人でシュートを入れることはできません。みんなでパスを回してシュートをすれば、点を入れることができます。声を出す大切さ、全員で取り組むことの楽しさを学ぶことができました。これから、つらく苦しいことがあっても仲間と一緒に決めてあきらめずに前向きに生きていきます。</p> <p>○ ぼくは、福澤選手と出会ってからすごく変わりました。「あんなかっこいい人になりたい。」と、思いました。福澤選手は、義足をつけています。人にジロジロ見られることもあるそうです。そんな時、福澤選手は、「どうだ、かっこいいだろ。」と思うそうです。知らない人にジロジロ見られてもかっこいいと思えばいいと聞いて、ぼくのもやもやは、晴れました。前の自分は、人に見られると嫌でした。でも、福澤選手の言葉で「もう、恥ずかしくない。」と思いました。気にしません。福澤選手が教えてくれたことを大切に生きていきます。</p> <p>○ 車いすラグビーのイギリスチームのみなさんは、すごかったです。車いすをがんがんぶつけ合ってプレーをしていました。パラリンピックに向けて、すごい練習をしていることが分かりました。一緒に試合ができてうれしかったです。パラリンピックで応援したいと思います。</p> <p>○ 障害者野球の黒塚選手は、義足をつけています。でも、ピッチャーとして、世界一になりました。すごいです。日本代表のユニフォームを着ていました。事故で足をなくしてから、苦しいことや辛いことがたくさんあったそうです。でも、そのたびに心を強くして、目標をもち達成してきた黒塚選手の話聞いて、私もがんばろうと思いました。体験では、黒塚選手とキャッチボールをしたり、黒塚選手が投げたボールを打ったりしました。本物の野球選手の球はすごかったです。</p> <p>○ 車いすバスケットボール小学生大会の次の日にお母さんと「チャンピオンズカップ」を観に行きました。日本対ドイツを観ました。どちらも強かったけど、日本が勝ってうれしかったです。開会式で一緒に入場した選手も活躍していました。私も試合に出て、車いすバスケットボールが大好きになったけど、プロの試合を観て、ますます好きになりました。これからも日本代表を応援して、東京パラリンピックでも絶対に車いすバスケットボールの試合を観たいと思います。</p>
7実践において工夫した点(事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> ○ パラスポーツ選手との交流における講師謝礼金 ○ 交流活動に併せた簡易型ネットフェンスの購入(シッティングバレー用) ○ 障害者スポーツセンター(アレアス)との連携 ○ アレアスを活用した校外学習(障害者スポーツ体験)
8主な課題等	<p>○ 今年度は、保護者対象に家庭教育学級でもパラスポーツについて取り組んだが、来年度は、地域も参加できるように運動会の入場や種目などに「オリンピック・パラリンピック」の要素を取り入れたい。</p>
9来年度以降の実施予定	<p>○ 5年生の「総合的な学習の時間」のカリキュラムとして位置付け、継続して行うため、来年度も実践予定である。</p>

